

令和元年度 地域経済動向

(令和2年3月末現在)

御津町商工会

現在の景気動向についての傾向

<総括>

- 中部地区（中部5県）の経済動向は一段と弱含んでいる。
- 愛知県の中小企業の景気感は、更に低下の動きが見られる。
- 愛知県内の商工会地域の景況感は「売上額」「採算」「資金繰り」すべての指標で低下している。
- 東三河地区では今期、製造業は後退、非製造業で横這い、全業種で後退。先行きは、製造業・非製造業・全業種の全てでやや後退を見込む。

1. 中部管内の経済動向について

◆中部経済産業局「最近の管内総合経済動向」（令和2年5月公表分）

中部経済産業局内の経済動向は、

『一段と弱含んでいる。』

としており、以下の様に分析している。

- 生産は、弱含みとなっている。
- 個人消費は、弱含みとなっている。
- 設備投資は、増加しているものの、伸びは鈍化している。
- 公共投資は、このところ弱含んでいる。
- 住宅投資は、弱含みとなっている。
- 輸出は、弱い動きとなっている。
- 雇用は、労働需給が引き締まりに緩和の動きが広がっている。

（1）生産について

鉱工業生産の動向を指数（3月速報）で見ると前月比▲3.1%と、3か月ぶりの低下となった。前年同月比では、▲6.3%と6か月連続で低下となった。

出荷は、前年比▲3.5%と3か月ぶりの低下となった。前年同月比では▲5.8%と6か月連続の低下となった。

在庫は、前月比1.5%と2か月ぶりの上昇となり、前年同月比では、5.4%と30か月連続の上昇となった。

次に主要業種別に動向を見ると

- 輸送機械の生産は、弱含みとなっている。
- 生産用機械の生産は、弱い動きとなっている。
- 電子部品・デバイスの生産は、緩やかに持ち直している。
- 電気機械の生産は、横ばいとなっている。
- 金属製品の生産は、弱含みとなっている。
- 鉄鋼の生産は、弱い動きとなっている。
- ファインセラミックスの生産は、弱含みとなっている。
- 繊維は、化学合成繊維が弱い動きとなっていることから、全体でも弱い動きとなっている。
- 陶磁器は、タイルなどが弱含みとなっていることから、全体でも弱含みとなっている。

(2) 消費・投資などの需要動向について

- 個人消費は、弱含みとなっている。
- 設備投資は、増加しているものの、伸びは鈍化している。
- 公共投資は、このところ弱含んでいる。
- 住宅投資は、弱含みとなっている。
- 輸出は、弱い動きとなっている。
- 雇用は、労働需給が引き締まりに緩和の動きが広がっている。
- 企業倒産（件数）は、2か月連続で前年を上回った。

※「中部管内」とは、富山、石川、岐阜、愛知、三重の5県を指す。

2. 愛知県内の経済動向について

(1) 中小企業景況調査（愛知県）

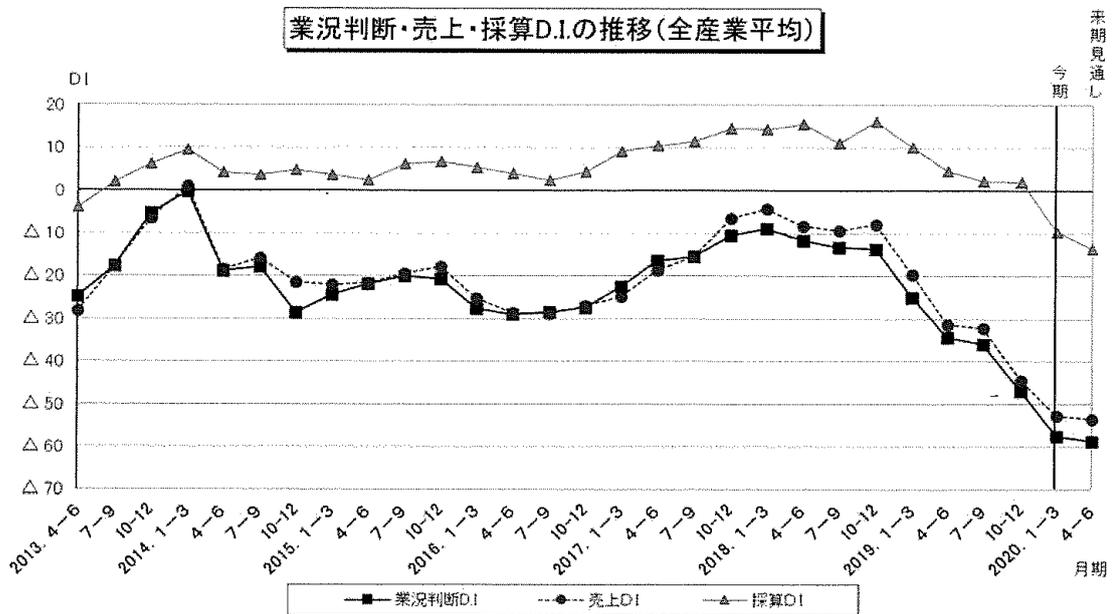
◆令和2年1月～3月期中小企業景況調査結果

中小企業の景況感は、

『更に低下（業況判断、売上及び採算の各D.I.で前期実績を下回った）』

となっている。

今期は、業況判断、売上及び採算の各D.I.で前期実績を下回った（全産業平均）
 来期は、業種判断及び売上の各D.I.で今期実績をやや下回り、採算D.I.で今期実績を下回る見通し（全産業平均）。



調査時期:2020年3月1日から3月10日まで
 調査対象:中小企業2,000社(回答社数1,195社 回答率59.8%)

業況判断D.I.は、前期実績 $\Delta 46.9$ から $\Delta 57.5$ （10.6ポイント減）となり、来期は $\Delta 58.7$ （1.2ポイント増）となる見通し、売上D.I.は、前期実績 $\Delta 44.4$ から $\Delta 52.7$ （8.3ポイント減）となり、来期は $\Delta 53.5$ （0.8ポイント増）となる見通し、採算D.I.は、前期実績2.0から $\Delta 9.7$ （11.7ポイント減）となり、来期は13.7（4.0ポイント減）となる見通し。

また、産業別では、①製造・卸・小売及びサービス業では、業況判断、売上及び採算の各D.I.で前期実績を下回った。②建設業では、採算のD.I.で前年実績を上回り、業況判断及び売上の各D.I.で前年実績を下回った。

(2) あいちの景気動向（令和2年3月分速報）

◆愛知県景気動向指数（CI: 景気変動の大きさやテンポ（量感）を表す指標）

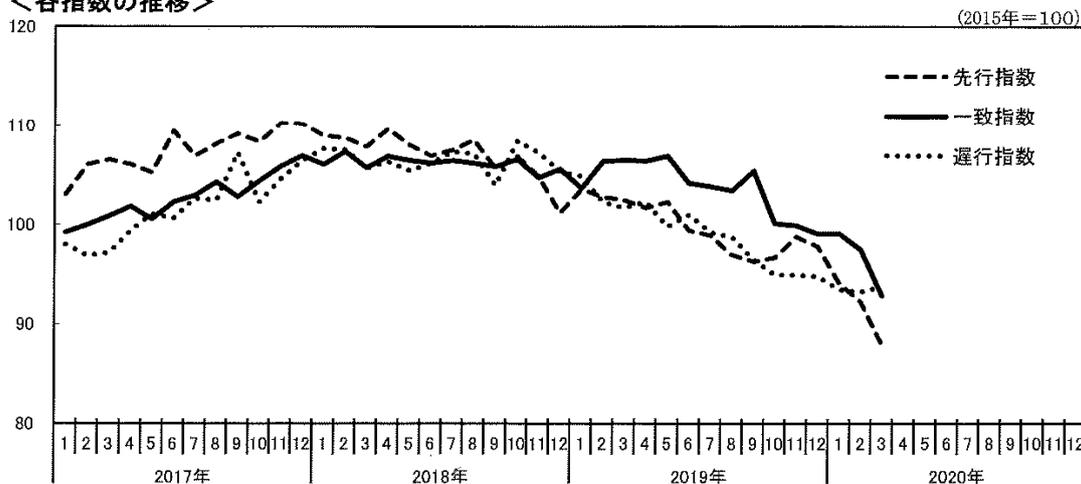
愛知県の景気は、

『本県の景気は、拡大の動きに悪化の傾向がみられる』

と考えられる。

景気の現況を示す一致指数は2か月連続で前月を下回り、景気の先行きを示す先行指数も、4か月連続で前月を下回った。景気の現状に遅れて動く遅行指数は、4か月ぶりに前月を上回った。

<各指数の推移>



※出典：愛知県県民文化局統計課 あいちの景気動向令和2年3月分速報より

(3) 愛知県商工会地区における産業全体景況

◆中小企業景況調査報告書（愛知県概略版）（令和2年1月～3月期実績）

愛知県下の中小企業の景況感をみると、

『4期連続ですべての指標が低下』

となった。

今期の産業全体の景況は、売上額 D.I.が△38.2、採算 D.I.が△36.5、資金繰り D.I.が△27.7 となり、対前年同期比でそれぞれ 10.9 ポイント、7.1 ポイント、9.0 ポイント減少し、すべての指標で低下に転じた。

次期は、すべての指標とも低下する見通しである。

業種別に景況をみていくと

- ・製造業は売上額 D.I.が悪化、採算 D.I.が低下
- ・建設業は売上額 D.I.が低下、資金繰り D.I.が悪化
- ・小売業では売上額 D.I.が低下、資金繰り D.I.が悪化
- ・サービス業は採算 D.I.と資金繰り D.I.が低下

となっている。

産業全体景況天気図

時 期	売上額D I			採算D I			資金繰りD I		
2019年4月～6月		△4.5			△16.3			△7.4	
2019年7月～9月		△13.5			△23.2			△12.4	
2019年10月～12月		△14.6			△23.1			△8.9	
2020年1月～3月		△11.4			△19.4			△8.6	
2020年4月～6月 (見通し)		△15.2			△21.4			△9.2	

3. 東三河地区の景況

◆東三河の中小企業の景況 豊川信用金庫が調査（令和2年1月～3月期）

中小企業景況調査をみると

『今期、製造業は後退、非製造業は横這い、全業種で後退。また、来期の景況予想は、製造業、非製造業、全業種の全てにおいてやや後退、今後の新型コロナウイルス感染症拡大の状況によってはさらに悪化の見込みとなっている。』

全業種の業況判断指数（DI）は▲3.9 となり前期比では▲5.5 ポイントの後退となった。景気は、輸出や生産の弱さが長引いており、個人消費は、感染症の影響により、このところ弱い動きとなっている。

業種別の今期の動向をみると、製造業では精密機械器具が横這いとなった以外は、すべての業種で後退となった。業種別に食料品が 9.5 ポイント、繊維製品が 14.3 ポイント、木材・木製品が 18.8 ポイント、非鉄・金属・プレス・メッキが 15.8 ポイント、金属製品 20.0 ポイント、一般機械器具・電気機械器具が 21.4 ポイント、輸送用機械器具は 9.0 ポイントの後退となった。

非製造業では、卸売業が 10.7 ポイントの後退、小売業は横這い、サービス業が 2.3 ポイント、建設業は 4.3 ポイント、不動産業は 3.8 ポイントのやや改善となった。

・業種別今期の動向

業 種	前期	今期	差
製造業			
食料品	23.8	14.3	9.5 ポイント後退
繊維製品	14.3	0.0	14.3 ポイント後退
木材・木製品	6.3	▲12.5	18.8 ポイント後退
非鉄・金属プレス・メッキ	5.3	▲10.5	15.8 ポイント後退
金属製品	10.0	▲10.0	20.0 ポイント改善
一般機械器具・電気機械器具	7.1	▲14.3	21.4 ポイント後退
輸送用機械器具	4.5	▲4.5	9.0 ポイント改善
精密機械器具	0.0	0.0	横這い
非製造業			
卸売業	7.1	▲3.6	10.7 ポイント後退
小売業	▲19.0	▲19.0	横這い
サービス業	▲2.3	0.0	2.3 ポイントやや改善
建設業	8.7	13.0	4.3 ポイントやや改善
不動産業	0.0	3.8	3.8 ポイントやや改善

※出典：豊川信用金庫 中小企業景況調査より

経営上の問題点は、製造業では「人手不足」、「同業者間との競争激化」、「工場設備等の狭小・老朽化」はやや改善、「売上の停滞・減少」「利幅の縮小」はやや後退となった。非製造業では「同業者間との競争激化」はやや改善、「売上の停滞・減少」「利幅の縮小」はやや後退、「人手不足」は横這いとなった。全業種で「同業者間との競争激化」はやや改善、「大型店との競争激化」、「人手不足」、「原材料価格の上昇」は横這い、「売上の停滞・減少」、「利幅の縮小」はやや後退となった。

・ 経営上の問題点上位 5 項目

	経営上の問題点	前期	今期	
製造業	①売上の停滞・減少	30.7%	33.5%	やや後退
	②人手不足	26.1%	25.0%	やや改善
	③同業者間との競争激化	28.4%	24.4%	やや改善
	④利幅の縮小	13.1%	18.8%	やや後退
	⑤工場設備等の狭小・老朽化	17.6%	14.8%	やや改善
非製造業	①同業者間との競争激化	41.3%	38.3%	やや改善
	②売上の停滞・減少	33.5%	35.4%	やや後退
	③人手不足	24.8%	24.8%	横這い
	④利幅の縮小	8.7%	14.1%	やや後退
	⑤大型店との競争激化	11.2%	10.7%	横這い
全業種	①売上の停滞・減少	32.2%	34.6%	やや後退
	②同業者間との競争激化	35.3%	31.9%	やや改善
	③人手不足	25.4%	24.9%	横這い
	④利幅の縮小	10.7%	16.2%	やや後退
	⑤原材料価格の上昇	9.2%	8.6%	横這い

※出典：豊川信用金庫 中小企業景況調査より

4. 豊川市内の求人の状況

◆豊川公共職業安定所ハローワーク業務月報（令和2年3月）

豊川市のハローワークの窓口の動きをみると、求職関係では、新規求職申込件数は前月比で7.7%増加、前年同月比で0.2%減少であった。

求人関係をみると、鉄鋼業で前年同月比1,100.0%増加したのをはじめ、輸送用機械器具製造業で44.7%増加した。その反面木材・木製品製造業、印刷・同関連業、情報通信機械器具製造業で100%の減少を示すなど、部門別で増加・減少のばらつきが大きい。製造業以外では、550.0%増加を示した金融業・保険業、57.9%増加した運輸業、郵便業以外でも増加の傾向を示した。但し、卸・小売業は9.4%、サービス業（他に分類されないもの）では24.1%とそれぞれ減少した業種もある。それでも全体的では前年同月比1.3%の増加であった。

有効求人倍率は1.00で、前年同月比0.33の減少であったが、求人が求職を上回る状況は現在も続いている。人手不足の解消には、今しばらく時間を要しそうである。

・豊川職業安定所の新規求人倍率・有効求人倍率

項目 \ 年月	令和2年3月	令和2年2月	平成31年3月	対前月増減差	対前年増減差
新規求人倍率	1.85	1.44	1.88	0.41	▲0.03
有効求人倍率	1.00	0.99	1.33	0.01	▲0.33

※全国の有効求人倍率は、1.39倍、愛知県は1.50倍、

出典：ハローワーク業務月報（令和2年3月）より

5. まとめ

以上の資料を総合すると、中部地区、愛知県内の経済状況は、全体では拡大に弱含みがみられる。商工会地区においては低下の傾向にあるといえる。次期は、更に低下する見通しである。今後、日本・世界経済は新型コロナウイルス感染症の拡大の動向によっては景況の更なる低下が懸念されるところである。

東三河地区では、製造業は後退、非製造業は横這いであることから、先行きは今後の新型コロナウイルス感染症拡大の状況によってはさらに悪化が見込まれ、全体的に予断を許さない状況である。